

NEWSLETTER

No.14

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会 会報 第14号

(2015年1月)

内容 連絡会活動報告

1. 第2回市民公開講座 ところをつなぐ：国際緊急援助隊医療チームのやっていること (富岡譲二).....	1
2. 平成26年度鹿児島県JICA派遣専門家連絡会活動報告(越塩俊介・水上惟文).....	2
3. JICAボランティアセミナー in鹿児島大学(越塩俊介・水上惟文).....	3
4. 平成26年度かごしま県民大学連携講座 経験活用講座(越塩俊介・水上惟文).....	5
5. 平成25年度「連絡会」総会報告(嶽崎俊郎).....	6
会員活動報告	
タンザニアの野性動物公園(稲見 廣政).....	11
募 集.....	13
鹿児島JICA派遣専門家連絡会申し合わせ事項.....	15
編集後記.....	16

連絡会活動報告 1

第2回市民公開講座

ところをつなぐ：国際緊急援助隊医療チームのやっていること

社会医療法人緑泉会 米盛病院 富岡 譲二

国際緊急援助は、実行主体が政府組織（GO）によるものと、非政府組織（NGO）によるものに分けられます。わが国の場合、政府としての国際緊急援助は〈人的援助〉〈物的援助〉〈資金援助〉の三つが行われますが、このうち、人的援助の実行部隊として組織されているのが国際緊急援助隊（JDR:Japan Disaster Relief Team）です。

JDRの活動のルーツは、1979年12月から日本政府によって開始されたカンボディア難民救急医療事業にあります。その後、1982年に国際救急医療チーム（JMTDR）が設立され、1987年には「国際緊急援助隊の派遣に関する法律」が公布・施行。翌1988年にJICA医療協力部内に国際緊急援助室が設置されました。

更に、1992年にJICA国際緊急援助隊事務局が

設置され、現在に至ります。JDRの中には、レスキュー隊を中心とした〈救助チーム〉、医療支援を中心とした〈医療チーム〉、迅速評価や復興支援を行う〈専門家チーム〉、それに〈自衛隊部隊〉が存在し、今までにさまざまな国際的な災害に対



して支援の実績を重ねてきました。

最近では、2013年11月に発生した台風30号によるフィリピンでの災害に対し、医療チームが第三次隊まで派遣され、3000人を超える被災者を診療しました。

ライフラインも、交通機関も途絶し、多くの医療機関が機能を失った地域での活動は困難を極めました。JDR医療チームの活動は現地の方々に

好意を持って受け入れられ、日本とフィリピンの人びとの「こころ」をつなぐことができました。

本講演では、フィリピンへのJDR派遣を例に取り、日本の国際緊急援助の仕組みと今までの実績、そして国際緊急援助の意義をお話したいと思います。

連絡会活動報告 2

平成26年度鹿児島県JICA派遣専門家連絡会活動報告

越塩 俊介、水上 惟文

1. 活動名：JICAボランティア・セミナー（JICA九州の活動の後方支援）

実施内容：鹿児島大学における青年海外協力隊募集説明会を開催した（参加者6名）。

鹿児島大学全学部にポスター掲示。

演 者：前平 理恵（青年海外協力隊OG、ブルキナファソ）

実施時期：平成26年10月30日（木曜日）

実施場所：鹿児島大学郡元キャンパス連合農学研究科棟3階会議室

2. 活動名：「国際協力パネル展～鹿児島と世界をつなぐ人々」の開催

実施内容：鹿児島県在住の専門家、青年海外協力隊OB、OG、シニア海外ボランティアOB、OG、県内JICA研修員受入団体、NGO団体等の活動内容をパネルにして展示する予定だったが、台風接近のため中止となった。

実施予定日：平成26年10月6日（日曜日）

実施予定場所：天文館ぴらもーる通り

3. 活動名：国際理解教育に関する授業の再開

実施内容：鹿児島大学共通教育で授業科目「国際協力論」の開講。

志賀先生御退官後中断していた

が、今年度から再開できた。

実施時期：平成26年度後期

受講生：100名

4. 活動名：平成26年度かごしま県民大学連携講座、経験活用講座「国際協力のための国際理解講座」

実施内容：1回目「なぜイギリスやフランスに黒人が多いのか」、2回目「ブラジルの日本人移民の夢と現実」、3回目「日本－北朝鮮国交正常化と日本人拉致問題」、4回目「中国・韓国の経済発展と日本の戦後賠償」について歴史的観点から講義された（受講生延べ94名）。

実施時期：平成26年6月21、28日、7月5、19日（全4回）

実施場所：かごしま県民交流センター東棟4階小研修室第二

5. 活動名：会報誌「NEWSLETTER」第14号の発行

実施内容：300部印刷

実施時期：平成27年1月

6. 活動名：会員名簿の作成

実施内容：名簿の作成

印刷：平成27年1月

7. 活 動 名：総会の開催

実施内容：総会を開催し、平成26年度活動報告、平成26年度決算報告を行い、平成27年度の活動計画案、予算案を審議

実施時期：平成27年1月10日（土曜日）

実施場所：天文館ビジョンホール8階

8. 活 動 名：市民公開講演会の開催

講演者：米盛病院救急部長 富岡 譲二

演 題：こころをつなぐ

国際緊急援助隊医療チームのやっていること

実施時期：平成27年1月10日（土曜日）

実施場所：天文館ビジョンホール8階

連絡会活動報告 3

JICAボランティアセミナー in鹿児島大学

平成26年度秋 青年海外協力隊 特別募集説明会 & 体験談

越塩 俊介、水上 惟文

平成26年度秋のJICAボランティア募集時期にあわせて、平成26年10月30日（木曜日）16：30～18：00、鹿児島大学郡元キャンパス連合農学研究科棟3階会議室で、JICAボランティアセミナー（青年海外協力隊特別募集説明会 & 体験談）を実施した。今回の会場は、鹿児島大学の学生は大学院農学研究科の学生以外には殆んど知らない

場所であったためか、毎年、20名前後の参加者があるところを、参加者はわずか6名であった。鹿児島大学での会場選びには、来年度は再検討する必要があるように思われた。

講師の前原理恵さんは、西アフリカ、ブルキナファソに青年海外協力隊、植林・プログラムオフィサーとして派遣され、鹿児島大学農学部卒業の技



青年海外協力隊体験談の様子

術を生かした活動を行った経験談が話された。

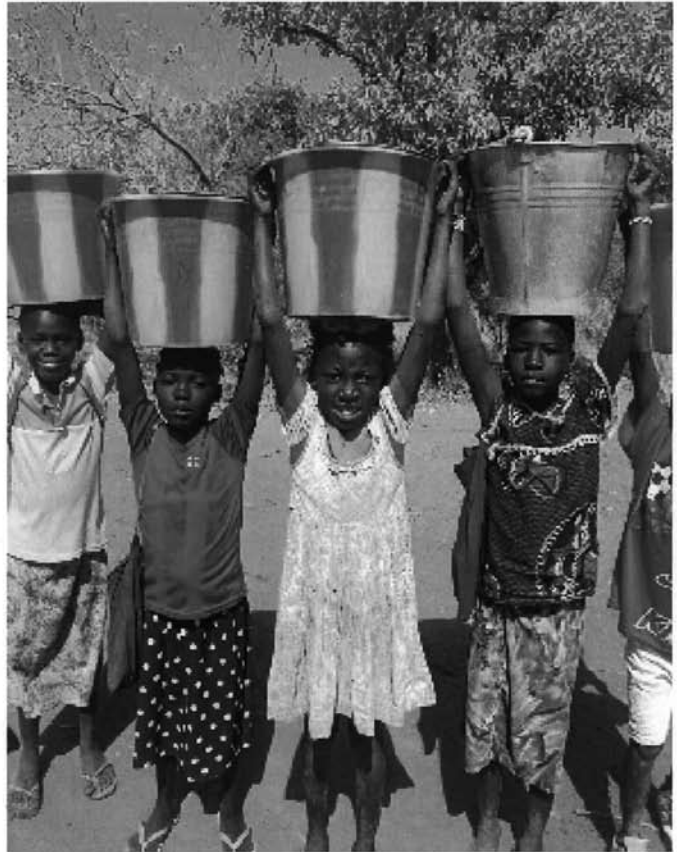
講義終了後、JICAデスクの大内田さんより青年海外協力隊への応募方法について説明を行った後、自由討論とし、講師への質問や、受講生同士

の討論で時間を忘れる程であった。この討論を楽しみに来た受講生も多く、講座は好評であった。講師の前原さんは鹿児島大学の出身で、年齢も学生に近く、話し易さもあったためと思われる。

ジャイカ ボランティア セミナー

青年海外協力隊
体験談 & 募集説明会
in 鹿児島大学

参加無料
入退場自由



【日時】 10月30日(木) 16:30~18:00

【会場】 鹿児島大学郡元キャンパス 連合農学研究科棟3階会議室



～プログラム～

16:30~16:45 ご挨拶・プログラムの説明

16:45~17:30 青年海外協力隊体験談

17:30~17:45 応募方法について

17:45~18:00 質疑応答・アンケート

【体験談】 前平 理恵 さん

(西アフリカ ブルキナファソ/植林・プログラムオフィサー)

鹿児島大学農学部卒業後、通算3年半ほど青年海外協力隊として活動しました。
ブルキナファソってどこ？ アフリカの生活ってどんな感じ？ 国際協力の現場って？
難しい話はぬきて、ありのままの協力隊経験をのぞぎに来てください。

<お問合せ> JICAデスク鹿児島

✉ Jicadpd-desk-kagoshimaken@jicago.jp Tel:080-3900-6624

平成26年度かごしま県民大学連携講座 経験活用講座「国際協力のための国際理解講座」

越塩 俊介、水上 惟文

かごしま県民大学連携講座として開催した経験活用講座は、本年度で3年目を迎えた。講座は4回に分け、かごしま県民交流センター、東棟4階小研修室第二で行った。

講師は本会会員の鹿児島大学名誉教授、志賀美英先生が担当され、大テーマ：「国際協力のための国際理解講座」、小テーマ：(1)なぜイギリスやフランスに黒人が多いのか、(2)ブラジルの日本人移民の夢と現実、(3)日本—北朝鮮国交正常化

と日本人拉致問題、(4)中国・韓国の経済発展と日本の「戦後賠償」と、身近な疑問、問題を取り上げ、それぞれ歴史的観点から掘り下げて話された。受講生は、1回目19名、2回目24名、3回目25名、4回目26名、合計94名であった。各講義終了後は、自由討論とし、講師への質問や、受講生同士の討論に十分な時間を取り、この討論を楽しみに来られた受講生も多く、講座は好評であった。



志賀先生の講義風景

平成25年度「連絡会」総会報告

幹事 嶽崎 俊郎

開催日時：2014年（平成26年）2月1日（土）

13：30～14：30

開催場所：天文館ビジョンホール 6 階

I. 総会議事

1. 開会

司会進行 嶽崎幹事

2. 会長挨拶

水上惟文会長

土曜日でお休みのところ、平成25年度鹿児島県JICA派遣専門家連絡会総会に、ご出席いただきありがとうございます。本日は、JICA九州国際センターから所長の勝田幸秀さまが、来賓としては青年海外協力隊鹿児島県OB会から会長の桑山昌洋さまにご出席いただいております。お二方には、後ほど、ご挨拶をお願いしてあります。

では最初に、本年度の役員を紹介します。会長は水上です。総会担当幹事は嶽崎先生です。経験活用担当幹事は、本日は欠席ですが、鈴木先生です。会計担当幹事は稲見さんです。NEWSLETTER担当幹事は加藤先生です。以上が幹事会です。顧問はJICA九州所長の勝田幸秀



さまです。事務局は、志賀先生、野田先生、市川先生、北先生です。特別会員は大内田さんです。来年度の役員改選については、後ほど説明いたします。

さて、本年度の活動を、NEWSLETTERの最終ページの「申し合わせ事項」にある本会の事業と対比させて見ていきますと、

「(2) JICAおよびJICA九州国際センターの業務遂行の方途に関する助言、支援等」に関しては、

1)鹿児島大学におけるボランティアセミナー(青年海外協力隊募集説明会)の開催で、2)鹿児島市天文館で毎年開催している「第5回国際協力パネル展：鹿児島と世界をつなぐ人々」の開催で、多くの来場者がありました。「(3)鹿児島県と海外諸国(特に開発途上国)との国際交流活動の促進、充実に資する諸活動」としては、1)鹿児島大学共通教育において、国際理解教育に関する授業「国際協力論」が平成26年度後期から講義を再開する運びとなりました。2)かごしま県民交流センターにおける「かごしま県民大学連携講座：経験活用講座」は、全4回開講しました。「(4)会員相互の情報交換・交流・親睦」については、総会、親睦会や国際交流パネル展などのイベントを通じ、交流を行った他、会員へのシニア海外ボランティア募集の情報提供も行ってきました。

また、今年の総会が昨年までと違う点は、従来は会員を対象に行っていた講演会を、今年は、一般市民を対象とした公開講演会にしたことです。講演会は総会終了後に行いますが、初めての試みなので、実際やってみないと分かりません。

専門家連絡会の活動は、国際協力関係諸団体、青年海外協力隊OB会、研修員受け入れ団体、NGOグループとの協力で行ってきました。特に、国際協力パネル展は、本年度で5回目を迎え、恒例化してきましたし、今年度は特に人目を引く民族衣装のファッションショーや民族ダンス等を行いました。来年度も、県内の国際協力に関係諸団体に呼び掛け、パネル展をさらに盛大なものにし

ていきたいと考えています。

現在の会員数は79名です。新入会員がいないため、会員数の減少が続いていることが問題です。JICA技術協力専門家は2002年でも109カ国、1,598名が派遣されています。私達が派遣されていた1980年頃は、雑誌EXPERTに、「海外で活躍中の専門家」として、プロジェクト名、派遣専門家氏名、専門、派遣期間が公開されていましたが、近年は、帰国専門家の情報が全く入手できず、新規会員の確保ができない状況が続いています。新規会員の勧誘は、会員からの個人的情報、イベント来場者、様々な会合での情報、出会い等で、細々と行っているのが現状です。この状態を打開できる方法があれば、情報を事務局までお寄せ下さい。

平成25年度の総会は、決算の関係で昨年同様、2月1日に行いました。来年度も恐らく、総会は今年度同様の日程となると思われますが、会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。また、会員の皆様には、来年度の事業に関する新規案件等ありましたら、是非、総会のこの機会に御提案ください。

本日は、総会、講演会終了後、懇親会を予定しております。実りある会にしたいと思いますので、是非、懇親会にもご参加ください。

3. JICA九州国際センター代表挨拶

勝田幸秀所長

今、ご紹介頂きましたJICA九州国際センター所長の勝田でございます。今回、このような形で参加できましたこと、大変光栄に思っております。私は昨年の3月からこのポストについております。今回の連絡会は初めての参加です。これからも宜しくお願い致します。

皆さんはJICAの専門家の方でいらっしゃるのですので、私からはJICAの最近の傾向についてお話しさせて頂きたいと思います。今日配られましたNEWS LETTERにも書いてありますように、最近のJICAは途上国も日本も元気にするという活動を理事長以下、声を大にして取り組んでおります。途上国だけではなく、もちろん日本だけではなく、途上国も日本も元気にする、たぶん、途上国で仕事をなされた皆さんには解って頂けるのではないかと思います。日本の税金で仕事をしているわけですので、日本のためになるということ

は当然のことで、現在の厳しい経済状態の中でJICAが強調していることは紛れもない事実であるわけですが、決してそれだけではなくて、今、国境が、国と国の境が、人であっても、物であっても、お金であっても、情報であっても、どんどん小さくなっている。つまり、グローバル化の社会の中で一部の国あるいは一部の人が豊かになって幸せになって、他がそうでないということが、他が許さなくなってきた。一時的にはそうであっても、どこかで歪みができてしまう。そういう世の中をどうしていこうかということについても、国際協力を行うの意義があるわけです。そういう高邁な理想はともかくとして、途上国と日本がwin-winの関係で発展できる国際協力をしていきたいと思っています。

今日は、この専門家連絡会に参集されている皆さんの経歴を見て感激したのですが、これまでの途上国での経験を帰国後も地域の発展や国際化に貢献されようという高尚な理想をお持ちであります。活動といたしましても、活動を紹介する、あるいはこれから行われます市民公開講演会など、非常に素晴らしい活動をされていらっしゃると思います。JICAとしましても、このような理想が高く立派な活動を全力をもってご支援しますと申しあげないといけないのですが、ご存じのように



最近、JICAの予算が非常に厳しくなって、なかなかご支援ができなくて、皆様には本当に申し訳ないと思っております。ただ、トータルといたして、途上国だけでなく日本も元気にするという意味では、専門家連絡会の活動は重要なものだと思っております、JICAはいろんなツールを持っておりますので、そのツールを使ってできる限りの応援はしていきたいと思っております。

それと、先ほど水上会長から新規の会員がなかなか入って頂けないという話がありました。JICAといたしましても大きな問題になっておりまして、個人情報の問題があって、残念ながら、現在はJICAからリストをお出しすることはできなくなっています。JICAが行っていることは、派遣前に専門家に派遣連絡会というものがあります、そちらに紹介して宜しいでしょうかということはお伺いしています。そこでイエスと仰った方にはご連絡を差し上げているわけですが、なかなかそういった方もいらっしゃらない。あるいは、コンサルタント契約といった新しい形で会社と契約して行かれる専門家の方が最近増えています。その場合は会社と会社との契約になっておりまして、連絡会に入る資格はあるのですが、個人との関係が切れていますので、そのような方は、個人的な伝手が入って頂いている方もいらっしゃるわけなのですが、いろいろな個人的な伝手やネットワークで入って頂かないといけないということが起こっております。これは、私達といたしましても非常に残念なことなんですけど、JICAの活動を見直した場合に、ボランティアの活動、専門家の活動、あるいはいろんな形を統合して国内で何ができるのかを考えて、途上国はもちろん、国内をいかに元気にするのかという面から派遣専門家連絡会の活動についても考えていきたいと考えています。

長くなりましたが、皆さん、これまでJICAの活動につきまして、ご理解とご協力を頂いたと思います。これからも、途上国と日本を元気にするJICAとしてご理解とご協力を頂きたいと思っております。これで私のご挨拶としてさせて頂きたいと思っております。どうも有り難うございました。

4. 来賓のご挨拶

青年海外協力隊鹿児島県OB会会長

桑山昌洋会長

皆さん、こんにちは。ご紹介頂きました、青年海外協力隊鹿児島県OB会の会長を務めさせて頂いております桑山と申します。本日は、平成25年度の総会が盛大に開催されましたことをまず、お祝い申し上げます。

私事ですが、私を知っている方は私の風貌が随分変わっていることにお気づきのことかと思えます。12月の初旬に、仕事もあり、パプアニューギニアに2週間ほど、現地での開発促進の芽がないものか調査にいらっしゃいました。現地の方々の男性をみますと、大抵の方は髭をはやしていらっしゃるもので、髭を生やさないとホモと思われるのではないかと思います、このような格好でやっていたのですが、帰ってきて、テレビなどを見ると、意外と髭を生やしている人もいますので、家内もちゃんと手入れするなら良いよと許可ももらいまして、このような顔立ちになっております。志賀先生ほどは長く出来ないと思いますが、まずは近況を話させて頂きました。

専門家連絡会の方々とは、パネル展やセミナーを通じて、私達を生かして鹿児島に貢献するという大きな目標が会の中でもありますので、それを着実に、車の両輪みたいな形で、実行できている



のではないかと思います。昨年は第5回目のパネル展を、いつもやっている場所がこの天文館のアーケードの中でということで、今年もやっているのだね、今年はどんな人が帰ってきているのか、どんな団体の活動があるのかと、最初から興味をもって来られているお客さんもいらっちゃったことをまず、お伝えしておきたいと思います。こうやって毎年やっていると、少しずつ根をはって、市民の皆さんに私達がやっている活動が目につくことによって、私達の願いというか、国際協力に対する思いを少しでも市民の皆さんに解って頂ける良いツールになってきたのではないかと思います。

OB会のことについてのことです。専門家連絡会の皆様とは事情が違うのですが、ここ3年前の東日本大震災の影響で、協力隊の広報等がだいぶ落ちまして、その年度から出発した隊員がだいぶ少なくなっておりました。ボランティアの数自体がだいぶ少なくなっておりまして、結局、2年後の今が帰国隊員が一番少ない状況になっておりまして、中学校・小学校をまわるセミナー等の人材を確保するのに苦慮されていることがあります。そういった点でも、学校だけではなく、いろいろなところで、講師派遣という形でパンフレットにも書いてありますけど、専門家の皆さんの経験を生かした形で、学校とか。社会人のセミナーであるとか、そのような所に行かれて、皆さんの経験と思いを伝えられる場所ができていけば、もっと良いのかと考えております。今回は講演会という形で、吉田前学長が話されるということで、私も非常に楽しみにしておりますし、多くの方に来て頂けることを望んでおります。

昨年度から景気が少し良くなったと申しますか、国際的な通貨高が少し是正されたこともあり、日本国内の景気が良くなったという雰囲気が流れております。昨年の秋の協力隊や各種ボランティアの会場に集まる人達の顔を見えますと、それまでよりは内向きの指向が少し減った形で、外に向かって打って出来るという気持ちが、少し醸成されてきているのではないかと私自身は思っております。今後、こういった傾向が少しでも続くように、大きく拡大するように、できれば広報をもっと頑張っていければと考えております。

人数が少ないこともありますが、以前、OB会

の弓場さんから伺った話で、衰退していくものは能力が落ちるから衰退していくのではないとお聞きしまして、では何故ですかとお聞きしましたら、変化をしていく、状況に合わせて変化をしていくものが最終的に生き残るのだよねとお聞きして、さすがだなと納得した思いがあります。いろいろと条件や周りの環境が変化していくにつれて、昔通りではうまくいかなくことも多いかと思いますが、そこは、現状を見据えて、どうすれば生き残れるか、サバイブという言葉がありますけど、どうにかして生き残る、そしてその先で芽を咲かせて生き残るというスタイルを続けていけば、私たちも発展していけるのではないかと考えております。本日は、盛大な会にお呼び頂きまして有り難うございました。今後ともご協力を宜しくお願いいたします。

5. 議事

1) 平成25年度活動報告(水上会長)

NEWSLETTER No.13の4ページに今年度の活動報告がありますので、ご覧ください。

(1)JICA九州の後方支援としてのJICAボランティアセミナーです。実際には鹿児島大学で行っている青年海外協力隊募集説明会の開催ですが、28名の参加がありました。これまで、共通教育の中で行っておりましたが、今回は大学の構内で、別に行いましたので、このように多くの人があつまりました。

(2)国際理解教育という共通教育の授業です。志賀先生がご退職された後、暫く担当者が確保出来ない状態でありましたが、平成26年度の後期から、「国際協力論」として再開されることになりました(加藤幹事が科目コーディネーター)。

(3)パネル展「国際協力パネル展～鹿児島と世界をつなぐ人々」の開催(JICA九州主催、当連絡会・青年海外協力隊鹿児島県OB会との共催)では、民族衣装のファッションショーやダンスなども合わせて行いました。参加者は概数ですが、400名程でした。例年、2日間行っていましたが、今年は1日だけにして、楽しんでもらうことも合わせて行いました。

(4)経験活用講座としてのかごしま県民大学連携講座は、今年は大正大噴火100年目にあたる

わけでしたので、桜島火山観測所の井口先生
にお願いして、「火山噴火予知と災害」につ
いて3回話して頂き、最後の1回は鈴木先生
に「熱帯生物の多様性」の講義をして頂きま
した。

(5)会報誌「NEWSLETTER」第13号の発行

(6)会員名簿の作成

(7)総会の開催

(8)市民公開講演会「鹿児島県の進取の精神と鹿児
島大学の国際化」の開催

2) 役員改選

これまでの役員が、稲見先生を除いて、任期満
了になります。まず、平成26年度からの会長につ
いて、立候補される方がいらっしゃいましたら、
審議していききたいと思います。どなたか、立候補
される方はいらっしゃいませんか。もし、立候補
される方がいらっしゃらなければ、役員会からの
案があり、資料をお配りしますので、これにつ
いて審議して頂きたいと思います。配布した役員案
の資料ですが、2年任期の会長として私（水上）、
幹事は総会担当が嶺崎先生、NEWSLETTER担
当が加藤先生、経験担当は鈴木先生でしたが、本
人が留任されないとのことで、新たに水産学部の
越塩先生を推薦致します。会計担当は稲見氏です
が、前任者が3月末に退職され、その後任という
形になります。まだ、承認を頂いておりませんの

で、本会議で（事後になります）承認を頂き
たいと思います。稲見氏は任期があと1年という
ことに形で提案させて頂きたいと思います。ご意
見がありましたら、宜しくお願い致します。

意見）稲見氏の任期も会長に合わせ、あと2人に
したらどうでしょうか。

構わないと思いますので、稲見氏の任期も2年と
して、合わせて審議させて頂きたいと思います。
賛同して頂く方は拍手をお願いします。（拍手多
数）有り難うございました。それでは、このス
タッフで2年間、活動したいと思いますので、宜
しくお願い致します。

3) 平成26年度活動計画

水上会長より、平成26年度も本年度同様の活動
を計画していることが報告された。

4) 会計報告

稲見幹事より、平成24年度決算報告、平成25年
度中間報告が資料とともに報告され、原案通り承
認された。なお、今年度予算で専門家連絡会の「の
ぼり」を作ることも紹介された。

5) その他

平成26年度予算案の提案が要望され、次期総会
からの次年度予算案提案を役員会で検討すること
にした。



タンザニアの野性動物公園

元タンザニアJICA機械整備専門家 稲見 廣政

タンザニア共和国は、アフリカ大陸のインド洋に面し、南半球に位置し、「野性王国」としてあまりにも有名である。野性動物公園には海外から多くの観光客を呼び外貨収入をもたらしている。タンザニアの面積は、日本の2倍半で日本の本州分の面積に相当する25%に野性動物が生息している。

野性動物が生息する管理地は、国立公園、自然（保全）保護区、ゲーム・リザーブそしてコントロール・エリアの4つに分類され、それぞれ特色を持った管理・運営がなされている。

そのひとつ人間と野性動物が共生する世界でもまれな風光明媚、壮観なスペクタクル“ンゴロンゴロ自然（保全）保護区”を紹介します。200万年前に起こった火山活動で出来た火山噴火口で、ユネスコ世界自然遺産でもある。

ンゴロンゴロとはマサイ族の言葉で「大きな穴（クレーター）」という意味である。もともとはナショナル・パークの一部であったがマサイ族の生活を保護するため、ただひとつ、「人間（牧畜をするマサイ族に限る）と野生動物が共生できる場所」として保護されている。1970年代前後はクレーターの下にもマサイ族は住んでいたが、現在はクレーターの中には住めないようになっているが、日中はクレーター内の草を求めてマサイ族が牛の群れを連れて外輪山を降りて放牧にくる。運が良ければ一方にマサイが連れた牛の群れ、他方に多くの野性動物、ライオン、ヌー、シマウマ等が観て取れる。

クレーターの壁の高さは600－800m、直径は20kmあり、ほとんどの野生動物はこの中を安住の地とし、クレーターの外にはあまり出ないといわれ一生を過ごすことになり、動物の楽園と化している。そのため、年中多数の野生動物の生態が

観られ、1ヵ所のエリアで野生動物のアフリカ・ビッグ・ファイブ（ゾウ、バファロー、サイ、ライオン&ヒョウ）も観察できる。サイについては、密猟のため激減しているが、結構観察ができ最近では20数頭に増えている。

ここでは白サイが見られないが、筆者がンゴロンゴロにいた1995年代には黒サイが6～7頭で、そのうち1頭が密猟にあい大騒ぎになる。最初にタンザニアに派遣された1970年の始めには多くの場所でサイも群れをなしていたが、今は群れで観ることは難しくなっている。

野生動物（草食）は、自然の植生、雨を求めて大移動しより良い自分の住むところを決め、出産、子育てをする。そして、肉食動物のライオンなどは草食動物の後を追ひハンティングし食事にあつく。

クレーター内には、“マカトゥー湖”があり、時期には、数千から数万羽のフラミンゴ（渡り鳥）の群れがこの湖をピンク色に染め、クレーターの外輪山から観る光景は圧巻である。また、多くの水鳥、サギなども生息する。クレーターに下りたときに近づいて観察も出来る。

クレーターの縁は標高2500mにあり、早朝には



ンゴロンゴロ自然保護区、標高2500mの外輪山からクレーターを望む。外輪山の縁から底まで600－800m、直径20km

霧がかかり日中でも結構寒いのでそれなりの衣服の用意が必要である。外輪山にはサファリロッジ

が数個あり、夜になると暖炉に薪が焚かれ、その周りで飲むビールも格別である。



ンゴロンゴロ自然保護区、クレーターの底に集まりサファリの情報交換、休憩を取る

クレーターの外輪にある自動車などの整備工場、ンゴロンゴロ自然保護区の管轄下であり、1995年から97年まで活動した同僚たちと（2010年訪問時撮影）



ンゴロンゴロ自然保護区、クレーターが壁で囲まれていて野性動物の楽園

募 集

1. シニア海外ボランティア

日系社会シニア・ボランティア 募集

年 齢 40～69歳

派遣期間 シニア海外ボランティア 1年、2年、短期（1～10ヶ月）

日系社会シニア・ボランティア 原則2年

募 集 春と秋に2回あります。

なお、平成27年度春募集の募集説明会は下記で行われます。

JICAボランティア説明会日程

4月2日（木） 18：30～

4月11日（土） 18：00～

4月16日（木） 18：00～

会場は3日とも「勤労者センター（よかセンター）7階 第1会議室」

JR鹿児島中央駅より徒歩5分

問い合わせ先 JICAデスク鹿児島

（鹿児島県国際交流協会内、かごしま県民交流センター1階）

電 話 099-221-6624

E-mail jicadpd-desk-kagoshimaken@jica.go.jp

2. 国際協力パネル展 パネル出展者 募集

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会では、10月上旬に青年海外協力隊OB会と共同で専門家の発展途上国での活動を紹介したパネル展を開催しています。

本会会員の出展者を募集しています。

原 稿 締 切 8月下旬

問い合わせ先 経験活用担当幹事（越塩俊介）

電 話 099-286-4182

E-mail 'koshio@fish.kagoshima-u.ac.jp'

3. かごしま県民大学連携講座 講師募集

専門家の発展途上国での派遣経験を鹿児島県民の方を対象に公開講座を行っています。是非、貴重な経験談をお聞かせ下さい。

申請締め切り 11月上旬

問い合わせ先 経験活用担当幹事（越塩俊介）

電 話 099-286-4182

E-mail 'koshio@fish.kagoshima-u.ac.jp'

4. NEWSLETTER 会員活動報告

NEWSLETTERに、会員の皆様の最近の活動報告を原稿でお送り下さい。

原稿締切 12月中旬

問い合わせ先 NEWSLETTER担当幹事（当面、会長が代行）

事務局 〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

鹿児島大学医歯学総合研究科国際離島医療学内

電話：099-275-6853 FAX：099-275-6854

E-mail：takezaki@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

担当：嶽崎俊郎（たけざきとしろう）



鹿児島県JICA派遣専門家連絡会申し合わせ事項

(平成15年2月28日)

1. 趣 旨

わが国における開発途上国に対する国際協力活動の一層の拡充要請、九州及び鹿児島県における国際交流活動の活発化、国際協力事業への参加志向の高まりが顕著な今日、開発途上国で国際協力活動の第一線に身を置いた共通体験を有する我々は、もてる知識・エネルギー等を結集して、前記の動向の有効な発展に資すると共に、県内の現居住地において我々の体験を活用する方途の具体化を期して、本会をここに結集する。

2. 事 業

本会は前項の趣旨の具現を図るため、下記に係わる事業を行う。

- (1)政府開発援助（ODA）進展動向に関する調査研究及び提言
- (2)JICA及びJICA九州国際センターの業務遂行の方途に関する助言、支援等
- (3)鹿児島県と海外諸国（特に開発途上国）との国際交流活動の促進、充実に資する諸活動
- (4)会員相互の情報交換・交流・親睦に関すること

3. 会 員

本会の趣旨に賛同するJICA派遣専門家経験者。

なお、今後帰国し、当会に入会を希望する専門家は、当会に入会届を提出するものとする。

4. 会長及び幹事

- (1)会の運営を円滑に行うため、当会に会長1名および世話役として幹事4名を置く。
- (2)会長は会務を総括し、会を代表する。
- (3)幹事は適宜幹事会を開いて、所要の協議・決定を行い、会員の協力を得て、第2項に定める会務の執行に当たる。
- (4)会長及び幹事の任期は2年とする。但し、再任は妨げない。
- (5)本会に顧問として、JICA九州国際センター所長の職にあるものを充てる。
- (6)本会に臨時会計役を定め、所定の会計処理を行う。

5. その他

この申し合わせ事項を改変、もしくは新たに会則を設ける場合、幹事会が原案を策定し、会員の過半数の同意（集会又は郵送による）を得て施行する。

編 集 後 記

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会会報14号をお届けします。昨年末にNEWSLETTER担当幹事が退職しましたので、急遽、代行を務め会報の編集・発行を行ったため何かと不行き届きの点があったかと存じますが、ご容赦下さい。本年も会員の皆様の連絡会活動への積極的なご参加・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(事務局)

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会会報 第14号

発 行 2015年1月

発行者 鹿児島県JICA派遣専門家連絡会 会長 水上惟文

鹿児島県JICA派遣専門家連絡会事務局

〒890-8544 鹿児島市桜ヶ丘8-35-1

鹿児島大学医歯学総合研究科国際離島医療学内

電話：099-275-6853 FAX：099-275-6854

E-mail：takezaki@m.kufm.kagoshima-u.ac.jp

担当：嶽崎俊郎（たけざきとしろう）